

商店街と地域のお店

くせのまちアーケードには、食料品店、飲食店、衣料品店、理美容店など、暮らしを支えるさまざまなお店が並んでいます。

長く地域で親しまれてきた店がある一方で、新しく営業を始めた店や、店内を改装して新しいサービスを始めた店もあります。

買い物をする場所としてだけでなく、人と人が顔を合わせ、地域の情報が行き交う場所として、商店街は少しずつ形を変えながら続いています。



にぎわう
くせのまちアーケードのようす

1 歩いて楽しむ、くせのまちアーケード

アーケードの中を歩くと、店先に並ぶ季節の品や、手書きのお知らせが目に入ります。

夕食の材料を買いに来た人、学校帰りに立ち寄る子ども、近くで働く人など、訪れる人の目的はさまざまです。店の人との短い会話を楽しみに、いつも同じ時間に買い物へ来る人もいます。

商店街には、通りから店内の様子が見える店もあれば、奥に入って初めて商品が見える小さな店もあります。急がずに歩いてみると、これまで気づかなかった看板や商品を見つけられるかもしれません。



2 店を続ける人、新しく始める人

地域のお店では、長年変わらない商品やサービスを大切にしながら、利用する人の暮らしに合わせた工夫が行われています。

少量の商品を用意する、電話で注文を受ける、店先に休憩用の椅子を置くなど、それぞれの店が無理のない方法で営業を続けています。

一方、空いていた店舗を活用し、新しい店を始める人も増えています。以前の店で使われていた棚や看板を残し、建物の雰囲気を生かしている店もあります。

3 受け継がれる味と、新しい工夫

商店街には、家族で受け継がれてきた料理や、昔から変わらない製法の商品があります。

同じ商品でも、材料の仕入れ方や包装の方法は、時代に合わせて少しずつ変わってきました。持ち帰りやすい大きさにする、保存方法を表示するなど、利用する人の声を取り入れながら工夫を重ねています。

新しい店では、地元の野菜や菓子を使った商品も作られています。昔からあるものと新しいものが同じ通りに並ぶことで、商店街にさまざまな世代が訪れるきっかけになっています。



4 商店街の昔と今

かつての商店街では、現在よりも多くの店が通りに面して営業し、日用品の多くを近所でそろえることができました。

暮らしや交通手段が変わり、店の数や扱う商品も変化しましたが、現在も商店街は地域の身近な場所として利用されています。

昔の写真を見ると、建物が建て替えられていても、道の曲がり方や店の並びに当時の面影が残っていることがあります。市立図書館では、商店街周辺の古い写真や地域資料を閲覧できます。